



大昔の人々は、どうやって道具をつくったの



石・骨^{ほね}・角・貝がら・木・土などを加工して、道具をつくっていたんだよ。

人々のくらしの発展には、道具が、大きな役割^{やくわり}を果たしてきました。特に縄文人^{じょうもんじん}は、道具をつくる名人で、石・木・土や、動物の骨・角、貝がらなどを材料にして、くらしに必要な道具を、たくさん作り出しました。

かり・漁の道具づくり

縄文人は、木や竹を組み合わせ、やりや弓矢をつくり、かりに使いました。やりや矢の先には、割^わってとがらせた石をつけました。魚をとるつりばりは、しかの角・骨などを、割^わったり、けず^{けず}ったりしてつくりました。魚をつきさすもりの先も、角や骨でつくりました。

土器づくり

縄文人は、食べ物をにたり、貯蔵^{ちよぞう}したりするために、ねん土でつぼやはちの形をつくり、それを火で焼いて、土器をつくりました。縄文人は、土器でいることによって、動物の肉だけでなく、木の実や球根など、さまざまなものを食料にすることが、できるようになったのです。

そのほかの道具づくり

木を切りたおしたり、丸木舟をつくったりするおのには、みがいた石の刃^はを、木の柄^えにとりつけました。また、木でおわんをつくったり、木の皮を編んで、かごをつくったりしました。縄文人のごみすて場^{かいつか}だった貝塚からは、これらの道具とともに、うるしをぬったくし・はちなども出てきます。縄文人は、わたしたちの想像よりも高い技術で、道具をつくっていたようです。